



No.1 《アカリヨムの前の草花（草花とアカリヨム）》1969年 メゾチント 269×360mm

長谷川潔 1891-1980展

日常にひそむ神秘 2022/ 7/16 (土) ~ 9/25 (日)

パリで創作活動をして高い評価を得た銅版画家、^{はせがわきよし}長谷川潔（1891-1980）を紹介する
展覧会を開催します。日常にひそむ神秘を描き出した長谷川潔の深遠な表現世界を
ご堪能下さい。

長谷川潔は1910年代半ばに文芸同人雑誌『仮面』の版画家として創作活動を開始し、1918年に日本を去って以来パリを拠点に活動した銅版画家です。サロン・ドートンヌやフランス画家・版画家協会に所属してパリの画壇で高く評価されたほか、フランスでは文化勲章、日本では勲三等瑞宝章を授与されるなど、芸術家としての功績がたたえられています。

国際版画美術館は2018年度にこの版画家の展覧会を開催しました。本展はその展覧会をベースに、最初期の作品から1970年代の銅版画までを年代順に展示するとともに、関連作家の作品も展示、全体を約165点で構成するものです。また挿絵本の傑作である仏訳の『竹取物語』について、挿絵頁を可能な限り多く展示します。

深い精神性が反映された長谷川潔の深遠な表現世界に、あらためて向き合ってください。

展覧会構成

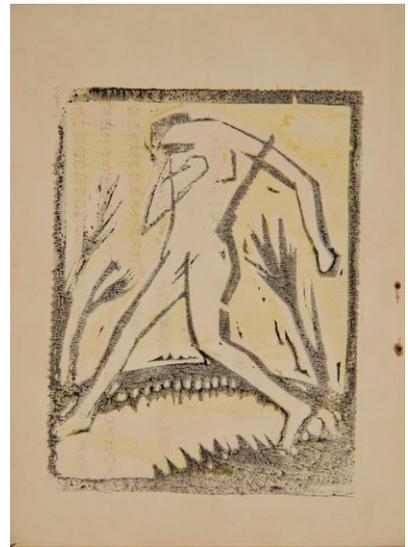
第Ⅰ章 (プロローグ)

日本時代 文芸雑誌『仮面』の画家 1913-1918

長谷川潔が画家を志し、版画の制作を始めたのは 1912 年のことでした。日本を去る 1918 年まで、美術文芸雑誌『仮面』同人の版画家として活動した時期の作品を紹介します。

コラム 1 『仮面』および日本版画倶楽部の版画仲間

コラム 2 萩原朔太郎詩集『月に吠える』への共感



No.2 《歩める男『仮面主催洋画展覧会出品目録』1913年、木版、151×112mm

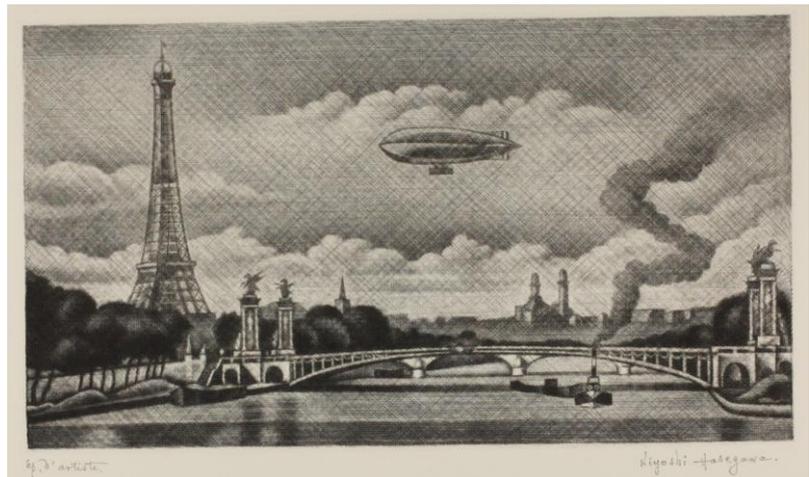
第Ⅱ章

フランスで銅版画家として立つ 1919-1941

フランスに渡り、表現を模索しつつ創作活動を開始してから、南仏の風景や神話に登場するヴィーナスのような女性像、机上の静物などを描きつつ独自の表現を確立するまでの作品を紹介します。その間にメゾチント（マニエール・ノワール）という版画の古典技法を研究し、現代版画の技法としてよみがえらせています。



No.3 《思想の生れる時》1925年、ドライポイント・手彩色、126×98mm



No.4 《アレキサンドル三世橋とフランスの飛行船》1930年、メゾチント、137×307mm

コラム 3 青年時代の刺激

第Ⅲ章

仏訳『竹取物語』 1934 (1933)

1934年に完成した挿絵本、仏訳『竹取物語』を紹介します。本野盛一（パリの日本大使館勤務の外交官）によるフランス語のテキストと長谷川によるエンブレイヴィングの挿絵が共鳴し、日本の伝統性と西洋文化が融合した近代挿絵本の傑作といえるでしょう。



No.5 仏訳『竹取物語』挿絵
1934 (1933) 年、エングレーヴィング、
148×100 mm

コラム4 エングレーヴィングという超絶技巧

第IV章

日常に神秘を視る 1941-1950 年代末

長谷川潔は第二次世界大戦中に、見慣れた一本の樹が不意に人間と同等に見えるようになり、万物は同じだと気づいて以来、自分の絵は変わったと書き残しています。本章では、それ以後の、日常にひそむ神秘を表現し、身の回りの深遠な世界のひろがりを描き出そうとした静物画や風景画などを紹介します。技法的にはエングレーヴィングで制作した銅版画が増加し、1950年代のコップに挿した野草を刻んだ作品などに技術的にも冴えが見られます。

コラム5

メゾチント技法の作品を比較する

コラム6 フランスの友人画家



No.6 《コップに挿した枯れた野花》
1950年、エングレーヴィング、282×228 mm



No.7 《開かれた窓》1951年
エングレーヴィング、297×225 mm

第V章

精神の高みへ — 「マニエール・ノワール」の静物画 1950年代末～1969

長谷川潔は1950年代末から60年代末まで、細粒な点刻で下地をつくり、漆黒のなかからモチーフを浮かび上がらせる「マニエール・ノワール」(メゾチント)による静物画を多数制作しました。それらは、あらかじめ意味を与えたオブジェや草花、小鳥などを意図に従って構成することで深遠な精神世界を探究した静物画で、長谷川の表現世界の到達点として位置づけられています。



左 No.8 《狐と葡萄(ラ・フォンテーヌ寓話)》1963年、メゾチント、
359×266 mm



右 No.9 《時 静物画》1969年、
メゾチント、269×360 mm

第VI章 (エピローグ)

長谷川潔自身が技法と表現の両面から、それまでの仕事を概観できるように構成した 1963 年発行の版画集（評論家によるテキスト入り）と、最晩年の作品を展示します。

展覧会基本情報

展覧会名 長谷川潔 1891-1980 展

— 日常にひそむ神秘 —

会期 2022 年 7 月 16 日（土）～9 月 25 日（日）

開館時間 平日：午前 10 時～午後 5 時

土日祝：午前 10 時～午後 5 時半

（入館は閉館 30 分前まで）

休館日 月曜日

* 但し、7/18(月)、9/19(月)の祝日は開館、
翌 7/19(火)、9/20(火)は休館

主催・会場 町田市立国際版画美術館

〒194-0013 町田市原町田 4-28-1

Tel.042-726-2771・0860/fax.042-726-2840

観覧料 一般 800 円（600）、大・高生 400 円（300）、
中学生以下無料

*（ ）内は 20 名以上の団体料金

* 7/16(展覧会初日)は無料

* 7/27、8/24 はシルバーデー

（毎月第 4 水曜日は満 65 歳以上の方無料）

* 身体障がい者手帳、愛の手帳（療育手帳）
または精神障がい者保健福祉手帳をご提示の
方と付き添いの方 1 名は半額

割引 リピーター割引、ウェブクーポン割引、
タクシー割引、パスポート割引あり
（詳細は当館 HP に掲載）

掲載の際のお問い合わせ先は、以下をご記載ください

町田市役所代表電話 042-722-3111

本プレスリリースに関するお問い合わせ

町田市立国際版画美術館

Tel.042-726-0860 (学芸係) fax.042-726-2840

担当学芸員：滝沢恭司 bunsपो040@city.machida.tokyo.jp



No.10 《横顔》1970 年、
メゾチント、361×268 mm

関連イベント

講演会

7 月 30 日(土) 午後 2 時～3 時半

講師 猿渡紀代子氏（大佛次郎記念館特任研究員）

講堂にて／要本展有料観覧券・招待券（半券可）／
先着 60 名

版画体験イベント

（版画制作を気軽に体験できるイベント）

8 月 6 日（土）、7 日（日）

講師：常田泰由氏（版画家）

事前申込制（先着順）／募集期間 7/22（金）～8/1（月）
参加費 500 円

プロムナード・コンサート

9 月 10 日（土）①午後 1 時～ ②午後 3 時～

（各回 30 分程度）参加無料／申込不要

① 桜美林大学芸術文化学群

② 玉川大学芸術学部演奏

学芸員によるギャラリートーク

*スライドレクチャーに変更場合があります

7/17、8/21、9/4、9/18 いずれも日曜日

午後 2 時～（各回 45 分程度）要当日有効の観覧券

画像データ・プレゼント用招待券について

No.1～10 の画像、クレジット・キャプションはオンライン・プレスリリースシステム「ART-PR」からダウンロードしていただけます。下記の本展広報専用ページにアクセスをお願いします。初回のみご登録が必要です（無料）。

▶プレス専用 広報用ダウンロードシステム

URL: <https://www.artpr.jp/hanga-museum/hasegawa1891-1980>

町田市立国際版画美術館